

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

# Growing

November 2016 **51**  
Vol. 毎月10日発行【本部】  
城東区今福西 2-1-8 モデラートわしみ 201  
TEL.06-6939-0008

|   |  |
|---|--|
| 【今福教室】<br>城東区今福西 2-9-20<br>TEL.06-6934-4662   | 【今福第2教室】<br>城東区今福西 2-16-8<br>TEL.06-6931-2000    |
| 【曙口教室】<br>鶴見区曙口 4-14-9-1F<br>TEL.06-6912-3984 | 【関目教室】<br>城東区関目 4-6-17-2F・3F<br>TEL.06-6934-8117 |
| 【今津教室】<br>鶴見区今津南 1-6-2-1F<br>TEL.06-6167-9722 | 【古市教室】<br>城東区古市 3-21-8<br>TEL.06-6931-0467       |

## 目先の成果にとらわれない 学習の大切さ

～大隅名誉教授のノーベル医学・生理学賞決定から思うこと～

高木 秀章(塾長)



細胞が自分のタンパク質を分解してリサイクルする「オートファジー(自食作用)」と呼ばれる仕組みの解明で、大隅良典・東京工業大栄誉教授(71)のノーベル医学・生理学賞が決定しました。

これで自然科学の分野でのノーベル賞受賞は3年連続。しかし、当の大隅教授は、浮ついている場合ではないと、日本の研究環境の悪化に警鐘を鳴らしています。

その1つとして、大隅教授は、国立大の運営費交付金が減り、政府の助成対象として産業や医療への応用研究が重視されている現状について「とても危惧している」と指摘した上で、基礎研究の充実を訴えています。

基礎研究とはすぐに何かの役に立つ研究ではなく、ある現象が何なのかを地道に解明し真理を探究するための研究です。一つの事柄が解明されるまでには長い時間が必要ですが、そのような地道な研究の一つ一つが、科学の礎となり、様々な革新的な技術の核を生み出す可能性があります。

大隅教授は、政府が目先の実用化を期待できる、応用研究に集中して研究費をつける今の体制を改め、長期的視野に立ち基礎研究の充実を図らなければ研究の裾野が広がらず、日本の科学力全体が低下すると懸念しています。

基礎力の向上が、全体の力に大きな影響を与えることは学習においても同じです。学習での基礎力とは「読む力」と「書く力」であり、これらはすべての教科に通底した力でもあり、まさに「学力の地力<sup>ぢりき</sup>」です。この力が向上することで、すべての学習の理解が深まり学習効率が上がります。

これら、「読む力」と「書く力」を身に付けるためには、読書や新聞を読むこと、又それらに対して当事者意識を持ち、自分の意見をまとめることなどの地道な努力を続けなければなりません。しかし、これによって身につく、読解力や論理力に伴う理解力と様々な知識は、少しずつ様々な内容に関係性を持ちながら派生し、様々な物事への感心や興味をもたらします。

そして、これが「勉強(勉めて強い)」から「学習(自ら興味・関心を持ち学び習うこと)への芽生えともいえます。

まさに基礎力である「読む力」と「書く力」は、勉強から学習へと裾野を広げる力になります。

もちろん皆さんは、日々の学校や塾の学習、クラブなどで忙しい日々を過ごしていると思いますが、1日たとえ20分でも、時間を見つけて、学習の基礎力である「読む力」「書く力」を身に付けるトレーニングを

行ってほしいと思います。

ところで、大隅教授がたった一人の研究室に移り、液胞が実際に細胞の中で分解に果たす役割に興味を持ち研究を始めたのは28年前だったそうです。

さて、長きにわたる研究を支えたものは、何だったのでしょうか?

教授が「研究を始めた時に、オートファジーが病気や寿命に関わると確信していたわけではない」と話していることから、目先の成果にとらわれるのではなく、「自分が見つけた現象が何なのかを解明し、新たな知識を生み出す」という科学者としての使命感と信念であると思います。

また、教授にとってオートファジーの研究が、強いられた「勉強」ではなく、自分の興味・関心を追求する「学習」であったからに違いありません。

「学習」は、目先の成果にとらわれず自分の好きな分野を探究・研究する行為とも言えます。受験に直面している学生時代は、このようなことを意識することはないかもしれませんが、大人になり、学習を継続するという事は、非常に大事なことだと気づきます。

学生時代に培う「読む力」・「書く力」が、目の前の受験に役立つことはもちろん、大人になって必ず自分を助けてくれます。大隅教授の受賞は、基礎研究=基礎学習が重要であることを再認識させてくれました。更に、その基礎力を基盤にして、自分の好きな分野や得意分野を見つけ「学習」することは、自身の大きな可能性を広げてくれることも示唆してくれていると思います。

私達も生徒の皆さんと日々、受験のための「勉強」に取り組む中で、「学習」の楽しさを教えられる学習塾になれるよう、努力と工夫を続けていきたいと思っています。



## CLASSROOM REPORT 教室レポート

# 目指すのは、子供達が楽しみを見出し 主体性を持って学べる教室づくり

熊谷 周作 (今津教室)

だんだんと寒い日が増えてきました。もうすぐ受験のシーズンが到来です。今津教室でも、入試に向けて、必死に頑張っている生徒達がたくさんいます。今回は今津教室について紹介したいと思います。

受験が近づいている中学3年生達ですが、日々力をつけてくれているように思います。夏期講習終わりの進研模試では、クラス全体の平均偏差値も60を突破しました。

ただし、結果が出て終わりではなく、進研模試の結果を持ってきて、どこが悪かったのか、どうやって勉強していくべきかを尋ねる生徒もいました。これは目標校をもち、どうしても受かりたい気持ちの表れのように思います。

成績が結果に表れるのには時間がかかる教科もあります。特に国語の読解問題などを鍛えるには時間がかかります。その読解力を鍛えるために、今津教室の中3生はコラムの要約練習を行っています。新聞のコラムを要約する要約プリントをプリント棚に用意しております。そのプリントを居残り時間や自習時間を利用して行い、提出してくれます。また、英語の長文読解練習や、自由英作文練習も行っています。自習に来たら、プリント棚から、自分の苦手としていることを考え、自らプリントを持っています。

自由英作文の添削では、最初は字数を埋めることばかりに意識が向き中身が薄い英作文を書いていた生徒も、何度も何度も書き直しをするうちに、入試で通用する文章を書けるようになります。そこに到達するために、居残り時間ギリギリまで残って書き上げたり、学校が終わるとすぐに塾に来て、自習にとりかかったりする生徒もいます。このように、自ら課題を見つけ取り組む姿勢が成績アップに繋がります。もし、まだ塾での課題にしか取り組めていない人がいれば、このような姿勢を見習って、取り組むと目標校に近づきます。

小学部では、10月末に行われたハロウィンレッスンにも積極的に参加してくれました。新しく一緒に指導してくれるミス・カトリナが加わり、いままでのトーキングキッズとは一味も、二味も違うグレードアップしたトーキングキッズ。このイベントにも今津教室だけで40名程が参加してくれました。

このハロウィンで、特に担当の恭子先生とミス・カトリナがテーマとして挙げたことが、「異文化に触れ、その中で英語を使うことを楽しむこと」。参加する子供達には仮装してもらい、近くのお店や塾生の家をまわってお菓子をもらいに行く、Trick or Treatを経験してもらいました。

当初、子供達は嫌がるのでは? という意見もありましたが、このレッスンに申し込まれた方

はカイチ全体で200名以上にもなったそうです。社会や教育制度の変化の中で、ご家族の意識も柔軟に変化しているのだなと感じました。

ただし、残念ながら今津教室では小学部の授業日と重なってしまったために、振替で授業を行うアナウンスを行いました。「参加したいけど、診断テストが近く、テスト勉強の方が大事だから・・・。」と、勉強の意識が高い生徒もいて、今回は参加を見送った生徒もいました。(それはそれで、先生として少しうれしかったりもするのですが・・・) こんな生徒達のためにも、12月に行うクリスマス会では、何か子供達に新しい体験ができるものを提供できるようにしたいと思います。

勉強とは「強く勉める」と書きますが、私はその中に楽しさがなければならぬと思います。ハロウィンが受け入れられたのは勉強の中に、仮装というユーモアや恥ずかしがり屋の自分の殻を少し破るなどの体験が入っていたからだと考えています。子供達が楽しみながら学べる環境を作られるようこれからも頑張っていきたいと思います。



# Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

## 勝負の冬到来! 今の時期に やっておきたい受験勉強法

高木 直也 (諸口教室)

今年も各教室の代表が集まる文理学科講座がはじまりました。今年は歴代最多の人数の参加となり、全体講座の会場が諸口教室となりました。諸口が開催地となつて、諸口教室を担当する私としてはより気が引き締まる思いです。

中学三年生は学校では、定期テストに加え、実力テストが立て続けにあり、カイチでは五ツ木、進研模試に向かって実力対策があり、目まぐるしい日々が続いていることと思います。そんな中をどう乗り切っていけばよいかを考えていかなければなりません。そこでまずは模試の過去の問題にふれ、時間を計って問題を解いてみましょう。漠然と解いていくと時間が足りないことに気がきます。そこで、時間配分を考え、解くペースを考えなければなりません。しかし、単に解くペースを速めたところですべての問題が解けるわけではありません。そこで、自分の志望校に対して各科目何点必要なのかを確認し、解ける問題を確実に解くことが必要となります。それに加えて、解く順序に工夫が必要です。国語であれば、速く答えが出せる古文から解き始める、社会であれば公民からなど、順序にひと工夫加えるだけで、解ける問題だったのに時間がなくて解けなかったという状況を減らすことができます。

次に、この時期の実力アップの方法としては、五ツ木、進研模試の前であれば、それらの過去問題を解いた後、答え合わせをし、間違い直しをすることで、自分の苦手単元を把握し、ウインパスや学校教材を用いて徹底復習をすることです。フリーラーニングを受講されている生徒はフリーラーニングをこれらの弱点単元克服に活用してください。この際、自分で復習ノートを作成し、学んだことをノートにまとめておくのがいいでしょう。そのうえでテストの解き直しを行い、単元が定着したかを確認します。

数学であれば、復習の過程で、各単元でどのような出題のされ方がなされているか、問題の出題パターンを知ることが重要です。この時期は模試過去問題や実力テストの間違い直しを通して全体から単元に戻り克服していくことがとても大切なのです。

近年の入試問題の傾向としては活用型問題の出題数が年々増加傾向にあります。昨年度大阪府では国語22%、英語11%の割合で活用型問題が出題されました。活用型問題は全国的に見ても出題傾向が高まっており、今後大阪府でも出題数が増加することでしょう。そこでカイチでは9月より活用型問題対策講座を実施、無料対策講座では72名が参加。保護者の方の意識の高さと、その必要性を痛感いたしました。実は参加者は中1生が最も多く、このような対策が付け焼刃では難しいことを理解されていることもよくわかりました。

入試では当然ですが中学3年間の学習内容が問われます。中学1年生・2年生はもちろん小学生の皆さんは毎回の授業に集中して取り組んでください。宿題は勿論、単語テストや小テストにも全力で取り組み、小テストでは合格点ではなく満点を狙うことです。部活動で勉強に手が回っていない生徒は、帰宅後の時間の使い方を見直してみ

ましょう。小学生は、解けない問題を解決するという学習習慣が中学校では求められてきますので、宿題をしっかりとやりきる。わからない問題は調べる、先生に質問する。できるまでやるという姿勢を小学校卒業までに身につけましょう。

あとは何より体調管理が大切です。勉強したくても体調が優れずできない、勉強量が確保できないということも起こります。無計画に夜更かしをしない、規則正しい生活を送り万全な形で学習ができる体制を整えられるようにしましょう。受験はあつという間にやってきます。後悔のないように一日一日を全力で一緒に頑張っていきましょう。



## COLUMN : 先生紹介 ▶ 森 香緒里 (今福教室)



はじめまして。今福教室でパスカルを担当している森香緒里です。今回は、私の自己紹介をさせていただきます。

私は小学4年生から音楽に魅了され、たくさんある楽器の中から、「フルート」という楽器を始めました。その

まま大学も芸術系に進み、卒業した今も演奏活動をしております。

大学を卒業した時に、社会に出て勉強しなければと思い、高校と小学校の音楽教師を経験させていただきました。たくさんの子供達を見てきて、全てにおいて、関心を抱く気持ちがとても大切だと感じました。「音楽が嫌い」、「算数が嫌い」、「嫌い」や「苦手」と思うのは仕方ないことですが、そこでシャットダウンしてしまうと、「嫌い」や「苦手」から、「できない」や「分からない」になってしまい、そのまま学年を重ねていくことになります。苦手だからといってフタをするので

はなく、とりあえず、まずは関心をもって取り組むことが大事なのだと思います。

これは小さい子供にも言えることで、「まだ幼稚園だから」、「低学年だから」と言って苦手なままで置いておくと、将来大きくなったときに、問題が山積みされていきます。私もパスカルの講師として、子供達と一緒に苦手な部分と向き合いながら、それを乗り越えるお手伝いをしていきたいと思ひます。

板東の  
ちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE

板東 亨 (今福・諸口教室)

すっかり秋めいてきましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

9月の中旬の話になりますが、10月に新しいポケモンのぬいぐるみが発売されるということで、ポケモン大好きの小4の娘に「買って」とせがまれました。もちろん買ってあげるつもりでしたが、父親の威厳を見せるつもりで、「都道府県を全部覚えたら買ってあげるよ。」と言ったら、なんと2週間で完璧に覚えてしまいました。やはり明確な目標があれば多少の困難は克服できるものなんだと、モチベーションの凄さを再認識させられました。(大きいぬいぐるみを4つも買われました)カイチで授業を担当し始めて5か月目になりますが、一番驚いたのはスタッフ同士の仲の良さです。普段は冗談を言い合ったりしてとてもいいコミュニケーションがとれています。(以前勤務していた塾では、生徒が委縮するくらい先生同士がギスギスした関係でしたので)ただし会議などでは『生徒の成績上昇、志望校に合格させる』ことを本当に第一に考え

て全員参加で活きた議論を交わしています。

諸口教室では中3の授業を担当していますが、9月からは今福教室の中3特進数学の授業と文理学科の教室別講座を担当することになりました。受験まで半年を切ったこの時期、生徒達の真剣さやがんばりが直に感じられる中3の授業を担当することが、私にとっての醍醐味でもあります。前回の文理学科講座では、普段はなかなか扱えない「整数問題」。

例えば、『 $3x + 4y = 51$ を満たす自然数  $x$ 、 $y$ の解をすべて求めなさい。』などをしました。このような問題は時間があればほとんどの生徒が解ける問題です。実際そのときは生徒は4~5分で解いていました。ただし実際の入試でこのような問題に5分も費やす時間的余裕はありません。だから式のどこに注目してどう式を変形させればよいか説明してからもう一度類似問題をさせてみると、すべての生徒が30秒以内で正答を出せていました。しっかりポイントを理解して今後活か

てほしいと思います。また少しでも分からないことがあれば質問するようにしてください。

最後に小学校中学年から高学年にお勧めの本があります。『考える力を育てるお話366 (PHP研究所出版)』です。これは366個の話が載っていて、1年かけて読み終えるという読書の習慣をつけるにはぴったりの本です。イソップ物語などの定番的なお話から、歴史や化学の「なぜ？」に答えるお話まで載っているので、我が家では娘の興味付けや好奇心を育てるのに役立っています。



▲『考える力を育てるお話366』  
私も娘に1日1話読ませています。

カイチからの  
お知らせ

- 11月初旬より期末模擬テストを各教室で実施します。
- 11月12日(土)は中学3年生対象の進研模試を午前9時より実施します。
- 11月13日(日)は中学3年生対象の五ツ木模試が実施されます。
- 12月10日(土)は珠算競技大会を実施します。代表に選ばれたみんなは教室の代表としてがんばってください。
- 11月は受験生にとって大切なテストが続きます。体調管理をしっかり行いながらテスト勉強をがんばってください。<受験生を持つ保護者の皆様へ>  
11月はテストが続き、精神的に不安定になる生徒達も出てくる時期です。心配やご相談があります時は、遠慮なく各教室にご相談ください。